

# ヒロシマ・

# 音の記憶

Vol.5 ~生きる~

日時

2014.12.13(土)

開演

18時00分 開演

(17時30分 開場)

場所

日本基督教団 広島流川教会

(広島市中区上幟町8-30)

主催

「ヒロシマと音楽」委員会

〒730-0012 広島市中区上八丁堀 8-14-5F

NPO法人 ANT-Hiroshima 事務局内

TEL (082)502-6304

Mail [hirongaku@hirongaku.com](mailto:hirongaku@hirongaku.com)

WEB <http://hirongaku.com/>

共催

広島流川教会、広島YMCA

協賛

広島市キリスト教会連盟

後援

広島市、広島市教育委員会、  
広島市文化協会、中国新聞社、中国放送、  
広島テレビ、広島ホームテレビ、  
テレビ新広島、IGLグループ

コンサート企画・構成

光平 有希 (「ヒロシマと音楽」委員会)

## ご来場の皆さまへ

「ヒロシマと音楽」委員会は、5年前から「ヒロシマ・音の記憶」と題して、「音」の中に眠る広島ของ営みや人々の想いをコンサートで表現してまいりました。また同時に、戦前・戦後の広島の音楽史の研究も続けております。その過程で、音楽を通しての人々の力強い復興の歩みに出会うことができました。

本日は、「生きる」力を祈りと音楽に求めた人々の軌跡を追って、1947年12月24日流川教会で行われたクリスマス音楽礼拝を復元します。この復元が実現するまでには、多くの皆様の温かいご協力とご支援をいただきました。この場をかりて心から御礼申しあげます。当時の人々の想いに今を生きる私たちの想いを重ねて演奏いたします。ごゆっくりお聴きください。

本日はご来場いただき、本当にありがとうございました。

2014年12月13日  
「ヒロシマと音楽」委員会  
委員長 渡部 朋子



## 企画にあたって

被爆による大きな傷跡が残る中、広島流川教会は、終戦直後から長く辛い復興の道のりを音楽と共に力強く歩んできました。そこには、「救いとしての音楽」「心の糧としての音楽」「平和の礎としての音楽」の力を信じ、教会のみならずヒロシマの地、そしてそこに生きる市民に向けて懸命に音楽を届けた人々の熱い思いが込められていました。また、その音楽に励まされ、多くの人々が明日からの生きる希望を見出したといえます。

広島流川教会では、被爆翌年より慈善演奏会などを開催し、市民を音楽で励ますことに重きをおきました。また、被爆2年後の1947年秋には、アメリカより《メサイア [救い主]》の楽譜30冊が贈られ、それを契機として、男女混声合唱の聖歌隊を組織。その後練習を重ねて、同年の市民クリスマスや「クリスマス特別番組『クリスマス音楽礼拝』」の中で《メサイア》の抜粋演奏が行われました。『クリスマス音楽礼拝』は広島流川教会からラジオ生中継が行われ、市民に向け、平和への道を音楽と共に歩むという彼らのメッセージが電波を通じて広く伝えられます。そしてこの年に演奏された《メサイア》が、今も広島で続く年末の伝統、《メサイア》演奏の礎とも大きく関連しているのです。

本日は、教会が音楽と共に歩んだヒロシマ復興への足跡原点に遡り、第1部では被爆2年後の1947年にラジオで生中継された「クリスマス特別番組『クリスマス音楽礼拝』」を、当時のラジオ番組進行表に基づき復元し、第2部では《メサイア》の抜粋演奏を行います。

当時、ヒロシマに生きた人々が、音楽や言葉を通じて今を生きる私たちに語りかけるメッセージに、共に耳を傾けていただけましたら幸いです。

「ヒロシマと音楽」委員会  
企画・構成担当 光平 有希

## クリスマス特別番組『クリスマス音楽礼拝』復元演奏

※ 当時のラジオ番組進行表を打ち直したものです。

クリスマス特別番組『クリスマス音楽礼拝』 広島市上流川教会より中継

12月24日 午後6時30分 第一放送(単独)  
 担当プロデューサー 福原信夫  
 担当アナウンサー 中村要輔  
 担当ミキサー 加藤広之  
 合唱 広島放送合唱団 広島キリスト教連盟聖歌隊  
 管弦楽 広島放送管絃楽団  
 指揮 水野康孝 太田司朗

(現場中継許可済12・23)

## 讃美歌 105

きよしこの夜 星は光り 救ひの御子は  
 御母の胸に ねむりたまふ 夢安く

きよしこの夜 みつげうけし 羊飼等は  
 御子のみまへにぬかつきぬ かしこみて

アーメン

(アナウンス)

神のみ子は今宵しも ベツレヘムに生まれしぬ。  
 いざや友よもるともに いそぎゆきて拝まずや。

静かに更けゆくクリスマスイブのひととき、広島市上流川教会よりお送りする、  
 クリスマス音楽礼拝をおきき下さい。

合唱 広島キリスト教連盟聖歌隊 広島放送合唱団  
 管弦楽 広島放送管絃楽団  
 オルガン 畑とみえさん  
 指揮 水野康孝さん 太田司朗さん

先ず 木村牧師の聖書朗読から初まります。

## 聖書朗読 ルカ伝2章 1-20

その頃 天下の人を戸籍に著かすべき詔令、カイザル・アウグストより出づ。この戸籍登録は、クレオ、シリアの総督たりし時に行はれし初のものなり。さて人みな戸籍に著かんとて、各自その故郷に帰る。ヨセフもダビデの家系また血統なれば、既に孕める許嫁の妻マリヤとともに、戸籍に著かんとて、ガリラヤの町ナザレを出てユダヤに上り、ダビデの町ベツレヘムという處に到りぬ。此處に居るほどに、マリヤ月満ちて初子をうみ、之を布に包みて馬槽に臥させたり。旅舎にをる處なかりし故なり。この地に野宿して、夜群を守りをる牧者ありしが、主の使その傍らに立ち、主の榮光その周圍を照したれば、甚く懼る。御使かれらに言ふ、『懼るな、視よ、この民一般に及ぶべき、大なる歡喜の音信を我なんぢらに告ぐ。今日ダビデの町にて汝らの爲に救主うまれ給へり、これ主キリストなり。なんぢら布にて包まれ、馬槽に臥しをる嬰兒を見ん、はその徴なり』忽ちあまたの天の軍勢、御使に加はり、神を讃美して言ふ、『いと高き處には榮光、神にあれ。地には平和、主の悦び給ふ人にあれ』御使等さりとて天に往きしとき、牧者たがひに語る『いざ、ベツレヘムにいたり、主の示し給ひし起れる事を見ん』乃ち急ぎ往きて、マリヤとヨセフと、馬槽に臥したる嬰兒とに尋ねあふ。既に見て、この子につき御使の語りしことを告げたれば、聞く者はみな牧者の語りしことを怪しみたり。而してマリヤは凡て此等のことを心に留めて思ひ回せり。牧者は御使の語りしごとく凡ての事を見聞せしによりて、神を崇めかつ讃美しつつ歸れり。

讃美歌 88 (オルガン前奏は前につづく)

祈祷 四竈一郎

天地の主 聖き恵の御神 茲に我ら人類最大の栄光なる救主イエスキリストの御誕生を祝すべきクリスマスの日を迎へ 高らかにその栄光をほめまつる時をあたへられ 衷心より感謝申し上げます

主は実にこの日 栄に輝く天のみくらより降りて貧しき人となり 迷へるすべての罪人をたづねて福音を宣へつつ 遂に罪のつぐなひとして あのいたましき十字架の最後をとげたまひました

このキリスト生まれたまひしより ここに二千年 人類は奴何に多く彼の教と恵みにより 暗黒より光明に 罪悪より救ひに導かれたことでありませう

実に彼の貧しさは そのまま世界の富であり 彼のくるしみは我等の祝福 彼の十字架は人類に対する贖罪でありました

もしキリスト生まれ給はざりしなば この世は如何になつたでありませう

おおめぐみの神よ

我等はここにこのめぐみの日を迎へて 衷心より感謝と歓喜の思ひを禁じ得ないのであります

今や戦争も終りを告げて 平和の礎があらたに世界の人の心に据えられようとしてあるとき 救ひ主キリストの愛と平和とが ここにあらためて我等の真実な問題として省みられねばなくなりました

彼の愛こそ実に我等の愛となるべきであり 又我等の真の平和は 実に彼の平和の中のみあるのであります

原爆の地広島が このたび世界平和のために 大いなる犠牲を拂ひましたのは無意義なことに終るでありませうか

犠牲をかへて祝福となし給ふキリストの御精神が今ここの広島に活かされるべきを信じて疑ひません

おお救ひの神よ

ねがはくばこの日 世界のあらゆる争ひと憎しみ 汚れと恥 罪と不真実を潔めて栄光に輝く神の国の正義と平和とを充ちさせ給へ

特に祖国日本の霊的復興のために 又戦争の惨禍によりて犠牲多かりし同胞兄弟姉妹上に みめぐみの豊ならんことを切に祈り奉る

救主キリストの御名によりて アーメン

ハレルヤ コーラス (アーメンにひきつづいてスタート)

(かぶせてアナウンス)

四竈牧師の祈祷とハレルヤ コーラスを最後に 広島市流川教会より中継いたしました「クリスマス音楽礼拝」を終わります。

1947年当時の音楽礼拝では、聖書朗読をバプテスト教会の木村牧師、祈祷を広島教会の四竈牧師が担当されました。本日の復元にあたりまして、前述の両牧師の所属教会で現在、牧師をされている以下の方々に聖書朗読と祈祷をお願いいたしました。

〔聖書朗読〕 播磨 聡 牧師 (日本バプテスト広島キリスト教会)

〔祈 禱〕 武田 真治 牧師 (日本基督教団 広島教会)

《挨拶》 向井 希夫 牧師 (日本基督教団 広島流川教会)

\*\*\* 休 憩 \*\*\*